

京都大学 OCW プラットフォーム およびシラバス公開システムの開発について

Development of the OpenCourseWare Platform and the Syllabus System at Kyoto University

岡本 雅子^{*1}, 藤岡 千也^{*1}, 緒方 孝亮^{*1}, 酒井 博之^{*1}

Masako OKAMOTO^{*1}, Kazuya FUJIOKA^{*1}, Kosuke OGATA^{*1}, Hiroyuki SAKAI^{*1}

^{*1} 京都大学高等教育研究開発推進センター

^{*1}Center for the Promotion of Excellence in Higher Education, Kyoto University

Email: okamoto.masako.8v@kyoto-u.ac.jp

あらまし：京都大学のオープンコースウェア（OCW）は、本学で実施している授業や公開講座、国際シンポジウムなどの映像や教材、関連資料等を一般公開するとともに、全学のシラバス（日・英）を提供している。本稿では、2020 年度に実施した OCW プラットフォームおよびシラバス公開システムの開発について報告する。

キーワード：OCW、オープンコースウェア、シラバス公開、プラットフォーム開発

1. はじめに

京都大学は、2005 年からオープンコースウェア（OCW）事業に取り組んでいる。京都大学 OCW とは、京都大学で実施している授業や公開講座、国際シンポジウムなどの映像や教材、関連資料等についてインターネットを通じて無償で一般公開するプロジェクトである。また、大学教育の情報公開の一環として、京都大学の全部局のシラバス（日・英）を OCW で公開している。本プロジェクトは、京都大学内の講義を、同大学の学生だけでなく、教職員、他大学の学生、関連学会の研究者、京都大学を志願する高校生、さらなる学習を志す社会人など、学ぼうとする全ての人に受講の機会を設けることを目的として企画されたものである。

京都大学の OCW は、2020 年度時点で公開している講義数 921 件⁽¹⁾、月平均 10 万を超えるアクセスがあるなど順調にプロジェクトを推進してきた。一方で、京都大学の OCW のプラットフォームは、2007 年以降、ユタ州立大学で開発された OCW 専用のコンテンツ管理システム「EduCommons」を利用してきたが、現時点でその開発は停止されており、また、その開発言語（Python2 系）が 2020 年にサポート対象外となったことから、セキュリティ上の危険性を伴うこととなり、持続的に OCW コンテンツを提供していくにあたりプラットフォームのリニューアルが喫緊の課題となっていた。さらに、これまでのユーザーインターフェースについても学内外から改善の必要性について言及されてきた⁽²⁾。

このような状況の下、京都大学では、2020 年度に新たに OCW プラットフォームのプラットフォームおよびシラバス公開システムを開発するとともに、既存のコンテンツを移行の上、OCW サイトの全面リニューアルを実施することになった。そこで、本稿では 2020 年度に実施した OCW プラットフォームおよびシラバス公開システムの開発について報告す

る。

2. OCW のプラットフォーム

OCW を運営している北海道大学、東京大学、名古屋大学、京都大学を対象とした王らの調査⁽²⁾によると、京都大学の旧 OCW サイトは、「古い感じ、画像が少ない、興味のある情報を探しにくい」など、「好感度」「見やすさ」「操作のわかりやすさ」で低い評価であった。

こうしたことから、今回のリニューアルでは、(1) サイトデザインの改善、(2) 検索機能の充実、(3) 関連動画の表示機能の追加、(4) 多様な端末環境での教材の検索や利用の支援（レスポンシブデザインの採用）についても検討した。

そこで、京都大学は、2020 年度にコンテンツ管理システムの WordPress をカスタマイズした OCW プラットフォーム (<https://ocw.kyoto-u.ac.jp>) を開発し、懸案であった旧プラットフォームのセキュリティ上の問題を解消するとともに、上述した 4 点の検討事項についても改善することができた。具体的には、京都大学を象徴するスクールカラー「濃青」を基調としたデザインを取り入れ、OCW 独自のロゴデザインを制作するなど、新サイトのビジュアルデザインを整備した（図 1 参照）。

さらに、目的の講義や教材を効率的に探し出せる検索機能を追加するとともに、スマートフォンやタブレット端末でも閲覧しやすいレスポンシブデザインを採用し、特に検索機能では、学問分野やキーワード等の複数項目による横断検索が可能になり、興味のある講義や教材を容易に見つけることができるようになった（図 2 参照）。また、サムネイル画像を表示するチャプター機能により、講義映像を見たシーンから視聴できるようになり、利用者の利便性が向上した。

なお、旧サイトから新サイトへの一括データ移行

ができなかったため、データ移行は一から手動で実施した。結果的には、リンク切れのページなどを含め、これまでに作成した日・英すべてのページを見直すことができた。

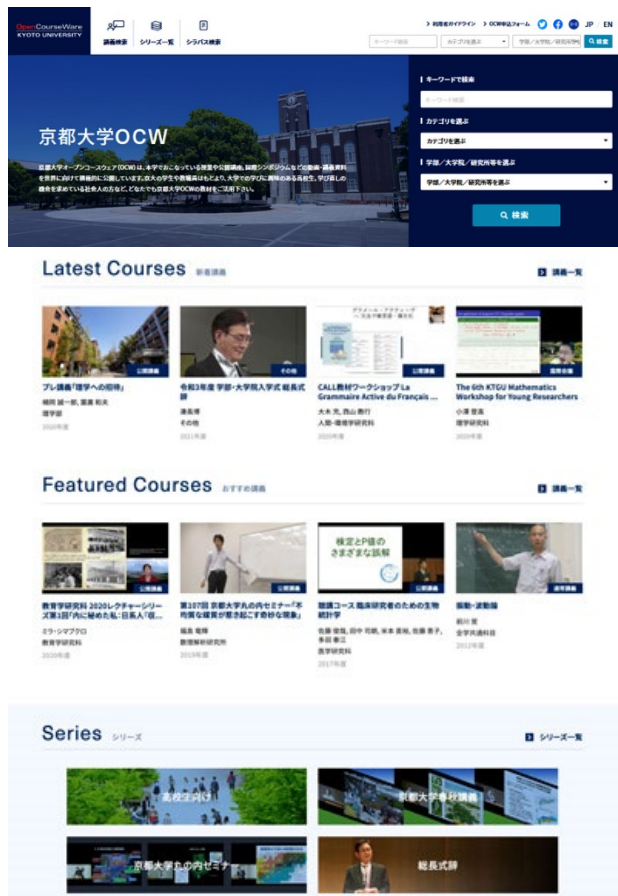


図 1 リニューアル後の京都大学 OCW サイト



図 2 講義の検索ページ

3. シラバス公開システム

京都大学 OCW サイトでは、大学教育の情報公開の一環として、全部局のシラバス（日・英）を公開している。これまで、各部局のシラバスの情報は、京都大学の教務管理システムから提供された JSON 形式のデータを OCW 側で HTML 形式に変換していたが、マニュアル操作が多く、公開作業に膨大な時間を費やしていた。そこで、今回、OCW プラットフォームの開発とともにシラバス公開システムも新たに開発することとした。

シラバス公開システムでは、提供された JSON 形式のデータを年度ごとに管理画面上で取り込めるようにした。また、取り込みの際、(1) 全部局の一括取込、(2) 部局ごとの取込、(3) 手動入力から選択できるようにし、年度更新時は一括取込、一括取込後の修正は部局ごとの取込あるいは手動入力で対応できるようにした。さらに、科目ナンバリングコードから該当する学問分野等を自動で取得できるようにするなどこれまで手作業で実施してきた工程を自動化することにより、作業者の負担を大幅に軽減することができた。

シラバス公開システムは、OCW プラットフォームと連携させており、シラバス公開システムで JSON 形式から HTML 形式に変換したデータを OCW プラットフォーム上で公開している。

なお、新 OCW サイト公開時には、2021 年度分のシラバスを日・英の両言語（各約 11,000 件）で公開した。加えて、OCW プラットフォームでは、シラバスの詳細検索もできるようにし、目的の講義を容易に見つけることができるようになった（図 3 参照）。



図 3 シラバスの検索ページ

4. おわりに

本稿では、2020 年度に実施した京都大学 OCW プラットフォームおよびシラバス公開システムの開発について報告した。今後は、本システムの有効性を検証するため、Google Analytics でのアクセスログや動画の再生回数などの分析を実施する予定である。

謝辞

本研究は、令和 2 年度京都大学総長裁量経費「オープンコースウェア (OCW) プラットフォームのリニューアル事業」の助成を受けたものである。

参考文献

- (1) 藤岡千也, 酒井博之: “III. ICT の教育的利用 1. オープンコースウェア (OCW)”, 京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2020』, pp.19-20 (2020)
- (2) 王宛奕, 田中佐代子: “国内における OCW のビジュアルデザイン”, 日本デザイン学会研究発表大会概要集, Vol.67, No.0, pp.274 (2020)